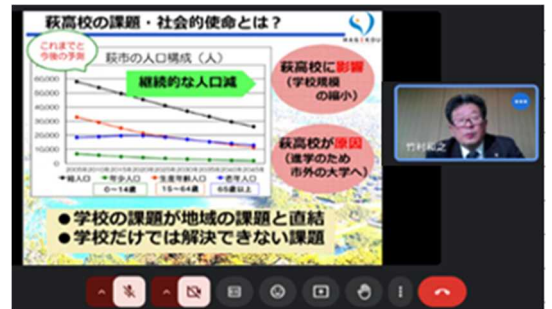


令和6年度「県立学校による地域との協働推進事業」研修会 実施報告

- 《日時》 令和6年12月3日（火）
《場所》 県立教育研究所 中講座室1（オンライン開催）
《参加者》 各県立学校の管理職、本事業担当者 参加者合計 39名
《内容》 14:00～ 14:05 開会
14:05～ 15:25 講演「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的にするために～社会に開かれた教育課程の実現の観点から～」
山口県立大学 将来構想推進局 審議監
文部科学省CSマイスター 竹村 和之 氏
15:35～ 16:15 行政説明「令和6年度『県立学校による地域との協働推進事業』の完了報告等について」
16:05～ 16:20 閉会

【講演の概要】

- 各学校における教育課題は、生徒の減少・生徒の自己肯定感の低さ・高等学校再編による統合等様々である。まずは、自校の教育課題が何なのかを知る必要がある。
- 地域学校協働活動を教育課程に位置付けて実施することが大切である。どんな取組を、どういう場面で、何のために行うのかを考える必要がある。また、普通科の学校においては「総合的な探究の時間」を有効に活用し、大学での学びにつながるような地域学校協働活動を行うと良い。
- 地域に目を向けたとき、「良い題材が無い」と思うかもしれないが、無いのではなく、題材に気がついていないだけかもしれない。また、地域に題材が無いのであれば、地域にはどのような題材が有るのかを探すことも大切である。
- 「地域に有るもの」を生かし、全員で始めるのではなく、まずは「できる人」で「できるところ（部活動・専門委員会の活動・授業等）」から始めると良い。
- 地域貢献活動を校内の専門委員会に位置付けて実施した学校では、学校生活と社会生活につながりが生まれ、社会に出る一歩手前の学校として、子どもの自立心・社会性・地域貢献への意識を向上させることができる。また、学校での経験が、自分自身と地域の未来を支える力となる。
- 地域学校協働活動をHP・SNSで発信したり、報道機関にプレスリリース等を行うことが必要不可欠である。積極的な情報発信を行うことにより、生徒や教職員の自己有用感が向上し、保護者の学校への信頼感・安心感につながる。また、地域の方は、高校に興味をもち、高校生に声をかけやすくなり、地域の活性化につながる。小・中学生にとっては、高校生や高校生活への憧れにつながる。
- 高等学校こそ「社会」とつながることが必要である。高等学校は社会に出る一歩手前の学校であり、小・中学校での学びを社会や将来につなぐ役割がある。高等学校の使命とは、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現をはかる「教育的使命」と、その地域に必要なだから、必要な高等学校があるという「社会的使命」の2つがあると考えている。
- 子どもたちは、多様な大人と交流することで、人間的・社会的に成長し、将来を見通す力を育むことができる。と考える。
- 地域学校協働活動について、スクール・ミッションやスクール・ポリシー、学校評価、教職員の目標等に明記すると良い。そして、学校運営協議会において熟議し、PDCAサイクルを回すことがコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に実施することにつながる。



《参加者の感想》

- ・生徒はもちろんのこと、地域や他の先生方も巻き込んでいくことは、相当なエネルギーが必要なことだとは思いますが、学校を変えていかれたお話は刺激的でした。本校でも参考にしたいと思えます。
- ・どんな学校においても、その地域の特色を学校教育に取り入れて活かすことができると感じました。
- ・どの実践も、とても温かみのある活動で良いと思いました。

